



すわっ子だより

学校教育目標 ともに伸びる子
かしこく ゆたかに たくましく
令和6年5月29日(水)
第3号 発行責任者 川添 倫義
在籍児童数155名
<http://higashiwatsuki-e.saitama-city.ed.jp>

続 後押しの姿勢

校長 川添 倫義

先月号で「子どもと向き合い、子どもに意欲的な活動をさせるためには、まさに子どもを尊重することから始まると思います。子どもが自分と異なる考え方を示しても、『そんな考え方もあるのか』『ユニークな視点だな』という捉えからその後の自分のアプローチの仕方を考えていきたいものです。」とお伝えしましたが、子どもを尊重するアプローチについてもう少し深堀してみます。

「何で〇〇なの?」、「だからだめなんだ」という声かけは、尊重した言葉かけではないので、その言葉をかけられた相手がやる気を出せるわけがありません。「鞭を打って走らせる」、「飴を渡して喜ばせる」ことも損得勘定を生み、好ましくありません。ではどうすればいいか? やり遂げたら良い思いや良いことがあるかもしれないということを言葉や態度で表現することです。

アドラー心理学にも、「すべて行動には目的がある」という目的論、「罰され(叱られ)なければ悪いことをやる・褒められるから適切な言動をする」という承認欲求、「他者の課題には踏み込まない・これは自分の課題である」という課題の分離(責任感)という考え方があります。

また、「よく気が付いたね」「早くできたね」「いつまでやっているの」など、状態を伝えることで褒めたり叱ったりすることがあります。しかしながら、うれしさや悲しさの感情は生まれるものの、自ら学び育つため声かけとしては物足りません。

- ・能力や人となりを決めつけない。
- ・他人と比較したり利用したりしない。
- ・プライドや自尊心を傷つけない。
- ・言い訳は聞き、行動の仕方を示す。
- ・決めつけではなく、「私は・・・と思う」というアサーティブな伝え方をする。
- ・「頑張れ」より「頑張ったね」
- ・望ましくない行動には「めずらしく」「たまたま」、褒めるときは「いつも」「ぜったい」
- ・「いい子だね」より「うれしい」「助かった」
- ・誠実であることは子どもとの信頼関係を築く。
- ・大きな目標への順を追った小さな目標を掲げる。

これらは、心理学の書籍等から学んだことで、教師として心掛けてきたことです。保護者や教師は、子どもを育てるという課題に挑戦し続けるチャレンジャーでもあります。子どもの思いや考えを尊重した声かけで、子どもをやる気にさせ、自らを育てる力を伸ばしたいものです。

いじめ撲滅強化月間について

本市では、6月を「いじめ撲滅強化月間」と位置付け、市立全小・中・高等・中等教育・特別支援学校において、いじめ問題について考え、いじめが起きない集団や学校を作ろうとする意識を高め、児童生徒の豊かな人間性や社会性をはぐくむ取組の充実を図るなど、いじめの未然防止に向けた取組を推進しています。

本校においても以下の取組を実施します。

- 1、お話朝会での校長講話
- 2、いじめ撲滅に向けた学級スローガンづくり
- 3、児童会によるいじめ撲滅を目指したキャンペーン
- 4、いじめに関する「簡易アンケート」の実施 等